

雜 報

會 員 動 靜

衛生技師ニ任ス 梶原 與七郎
 高等官八等ヲ以テ待遇セラル

衛生技師 梶原 與七郎
 熊本縣衛生技師ニ補ス (十一月十日)

海軍軍醫少尉 田中 屋清人
 豫備役被仰付 (十一月十五日)

岡山醫科大學教授 緒方 益雄
 本俸七級俸下賜 (十一月十六日)

岡山醫科大學長 田中 文男
 陸軍高等官一等 (十一月二十七日)

從五位勳四等 若月 館一
 敘勳三等授瑞寶章 (十一月二十九日)

從六位勳五等 平野 林
 從六位勳五等 下瀬 政三

敘勳四等授瑞寶章 (十一月二十九日)

海軍軍醫中尉從七位 有馬 玄
 海軍軍醫中尉從七位 木村 芳雄

任海軍軍醫大尉
 海軍軍醫少尉正八位 眞玉 三治郎
 任海軍軍醫中尉 (十一月二十九日)

岡山醫科大學教授 上坂 熊勝
 陸軍高等官一等 (十二月一日)

大湊要港部軍醫長兼
 病院長海軍軍醫大佐 若月 館一

免本職並兼職補馬公要港部軍醫長兼病院長
 舞鶴要港部部員兼分
 隊長海軍軍醫少佐 藤田 秀三郎

免本職並兼職補鳳翔軍醫長兼分隊長
 海軍軍醫少佐 菅田 直樹

補吳海軍病院部員
 海軍軍醫大尉 長谷川 靜一
 補廣海軍工廠醫務部部員兼佐世保海軍航空隊附

常磐軍醫長兼分隊長對馬軍
 醫長分隊長海軍軍醫大尉 大岩 博雅
 免兼對馬軍醫長分隊長

長良軍醫長兼分隊長
 長海軍軍醫大尉 三宅 正一
 兼補對馬軍醫長兼分隊長

平戸軍醫長兼分隊長
 長海軍軍醫大尉 林 成道
 免本職並兼職補吳海軍工廠醫務部部員

第二十六驅逐隊軍
 醫長海軍軍醫大尉 木村 芳雄
 免本職補韓崎軍醫長兼分隊長

春日軍醫長兼分隊長富士軍
 醫長分隊長海軍軍醫大尉 伊藤 慎一
 免本職並兼職

海軍軍醫大尉 伊藤 慎一
 海軍軍醫學校高等科學生被仰付

(十二月一日)
 從六位勳五等 石井 義章

敘勳四等授瑞寶章 (十一月二十九日)

金澤醫科大學助教授 松本 武一郎
 陸軍高等官六等 (十二月二日)

海軍軍醫大尉 黒木 武一
 海軍軍醫大尉 大岩 博雅

賜一級俸
 海軍軍醫大尉 三宅 正一
 海軍軍醫大尉 林 正道

賜二級俸
 (十二月一日)

賜二級俸 岡山醫科大學長 田中 文男
 岡山醫科大學教授 遠藤 中節

本俸七級俸下賜
 (十二月六日)

敘從四位 正五位勳四等 田中 文男
 (十二月十五日)

- 伊澤好爲君 は今般日本大學醫學部教授に就職せられ去月末日赴任せられたり
 ○釘宮文生君 は先般陸軍衛生部を辭し大阪市北區中崎町濟生會大阪府病院に勤務せられたり
 ○秋山成六君 は先般神戸税關を辭し東京駿河臺日本大學醫學部に勤務せられたり
 ○服部堯佑君 は今般愛媛縣越智郡波止濱町に移轉せられたり

川本喜代一君逝く 君は明治四十三年岡山醫學專門學校を卒業し廣島縣安藝郡仁保島村に於て開業し居られしか去十月三十日永眠せられたりと洵に痛惜に堪へず謹みて弔意を表す

◎學位授與決定 山崎若君は京都帝國大學醫學部に論文を提出し學位を請求し居られしか去月二十二日の教授會議に於て醫學博士の學位を授與すべきものと決定したり其主論文は左の如し

犬ノ蚤中ノ「レプトモナス、クテナチエフラー、トリパノゾーマ、レウィシー」及ビ病原鞭蟲類ニ就テ

◎大阪通信 緒方鷺雄先生開業祝賀會

緒方病院の先生が、先生の緒方病院かま迄云はれた緣故の深い新町緒方病院を去られた先生は、今回獨立開業せられました。吾々指導を受けたもの相集まり十月三十一日の天長の日佳節に心齋橋際のはり半本店でその祝賀の宴を催ふしました。折柄、當日は祭日と日曜日とを兼ね好時節とて「ヒクニツク」、その他先約等で不參者も御座ゐましたが爲め來會せられた人の數こそ少なかつたが心から先生の成功を祈る人々の眞情は溢れて實に師弟の情濃やかに懐かしい會合で御座りました。遠く姫路、神戸、岸和田、尼ヶ崎等からも來て下さつた人々に特に感謝の意を表します。尚ほ吾々の先輩で大阪の岡山同窓會を牛耳る吉谷氏の御來會をこれ亦深く御禮申し上げます。

終りに先生の萬歳を三唱して未だ興酣の頃を見計ひ夫々の第二、第三次の目的を順慮して午後十時に散會致しました。

當日先生より多額の御寄贈と共に見事なる栢樹の自畫の半切に左の句を讀ましたのを頂きました。

朝 晴 れ て 籬 の 菊 に 日 の め く み 漢 々

これは先生の今の境況を申されたのですが意味深長です。

出席者（イロハ順）

緒方鷺雄先生

井上秀男君	伊澤好爲君	小澤清躬君	越智昇一君
小川澈磨君	金親坦君	吉谷恒三郎君	谷内與一郎君
園田富士彦君	内藤業太郎君	黒住久君	山崎磐君
藤原政雄君	森藤眞治君	紺谷茂君	青野正雄君
佐野實君	北光三君	南川欣司君	宮竹圭一郎君
新藤輝雄君	世話人伊藤幸憲		

◎東京通信

○卒業後足掛け十年、伊澤君の上京と長谷川君の退京を機會に久し振りにて在京大六會を開催、會する者十二名牛肉をつつきながら歓談盡きす。乍失禮寄せ書を以て通信に代へ記念の爲め寫眞一枚を添へて一同の至極元氣にて各それぞれ何かやつて居る様な顔つきを御覽下さば幸甚。

田中先生に宜敷御傳へ被下度（當番幹事 正木鹽）

○商賣柄とは云ひ乍ら東奔西走、席温まるに違なしの有様。今日は轉任の荷造りをして積み出し遅刻して来るさ人の氣も知らず何の彼のさ口八ヶ間敷連中の喧さ此の上も無し。併し卒業後初めて顔を合す人々が殆ど全部、とても愉快。又、田舎落とは情なし。（長谷川海の醫者）

○未だ遊んでゐます。今夜くうつた事は初めです。（慶大 河合一郎）

○僅々二日で在京の同窓生が集まつて肥えた、やせた、鬚だ、禿げたさ談じて面白い事限りなし。（中山二郎）

○何を謂ふても同窓生の會合は嬉しい。（秋山成六）

○アアうつかり十年を過ぎたワイ、今夜は集るべきものは全部集つたさいふ大盛況で、スキヤキで舊情を温む。（山本義）

○岡山を巣立つて足かけ十年。同勢十二名、金魚の養十六人半。但し「半」は河合の女房が私する處に候。益々岡山醫大の發展を期し申候—（村山富治）

○酒を飲みつつあり—（田宮貞亮）

○九年目で會へばうまい顔ばかり（百束脱兎郎）

○岡山を巣立ちしてより九星霜にて會す。（伊澤好爲）

○卒業九年一室に會し愉快なるこそ限りなし。（神崎勤、櫻林哲二）

席上噂に上つた人次の如し（順序不同、敬稱失禮）

田中先生	上坂先生	田村先生	安藤先生	好本先生	八木田先生
齋藤先生	諏訪先生	島岡先生	笈先生	荒木先生	(故)高橋先生
(故)筒井校長	加藤先生	田部先生	由井君	吉田君	吉栖君
梅崎君	二川君	川北君	廣畑君	(故)土橋君	七樂君
大森君	細野君(舊姓淺野)	三橋君	藤本君	松浦君	吉田(功)君
松田金十郎様	村上 圭二様	平松君	大石君	内山君	須之内君

第四回中國眼科集談會

會 場 岡山縣倉敷町倉紡中央病院

時 日 大正 15 年 11 月 7 日 午後 1 時

演 說 抄 録

1. 眼窩血管腫の 1 例

東 泰 一 君

演者は眼窩に發生せる血管腫の 1 例に就きて報告し、其の發生、療法等に就て述べ、組織的標本を供覧せり。

2. 細糸角膜炎の 2 例

金 光 康 生 君

細糸角膜炎に就きて文獻、細糸の構造及び發生に關する諸家の説を略述し、自家實驗 2 例を述ぶ。演者は特に細糸の組織所見を詳述して、ヘス氏の細糸は角膜上皮細胞の異常なる再生に依りて發生す云ふ説に賛せり。

追 加

畑 文 平 君

本症は診斷の際、河本氏角膜襞注法を應用する時は細糸浮びて最もよくわかる、尙ほ全體のみならず横斷切片